

ICTで夢を形に！世界に一つだけの校内放送システムで笑顔を取り戻せ！

日常的な活用が生み出した放送委員会のドラマ

備前市立香登小学校 教諭 津下 哲也

キーワード：特別活動、委員会活動、日常的活用、非認知能力

実践の概要

「コロナで沈んだ学校を放送で明るくしたい！」彼の夢は、タブレット PC をフル活用した世界に一つだけの放送システムによって形になり、もう一つの夢である校内テレビ生放送も実現させた。日常的な ICT 活用が創造的なアイデアと結びついて生み出されたシステムは、後輩たちの手により給食時間に楽しみをもたらしている。

1. 目的・目標

(1) コロナで沈んだ学校を放送で明るくしたい！

彼の夢。それは、放送で笑顔を取り戻すこと。6年生の A 君は放送委員会の委員長（写真 1）。最高学年として、また委員長として活動しようとスタートした矢



写真1 委員長のA君

先の一斉休校。5月に休校が明けても、学校生活は様々な場面で活動が制限され、彼は学校中がなんだか暗く沈んでいるように感じていた。「コロナで沈んだ学校を、放送で明るくしたい！」熱い想いを胸に、お昼の校内放送の番組改革に取り組んだ。

2. 実践内容

2.1 試行錯誤の連続

イメージは、ラジオのDJ。オープニング曲が流れ、ア

ウンサーがタイトルをコール。給食の献立紹介の後、天気予報やクイズコーナー、時にはゲストを招いたインタビュー。情報盛り沢山のお昼のエンターテインメント番組が、彼が理想とする姿。しかし、実現までの道のりは、長く険しいものだった。

好きなタイミングで曲を流すため、タブレットに曲を複数入れ、端末スピーカーから流れる音をマイクで集音する方法を思いつく。ところが放送設備が古いため音量調節が難しくハウリングが起きる。天気予報、今日は何の日、占いコーナーなど、やりたいことが多すぎて、時間を超過してしまうこともしばしば。休み時間をフルに使っても準備が足りない。



写真2 ミーティングの様子

急な番組改革に対して、他の放送委員から意見が出る。放送内容に対する改善の提案が寄せられる。それでも彼はあきらめず、生じた課題について、一つ一つ解決の糸口を探りながら、仲間と共に番組作りに全力を注いだ（写真2）。

2.2 世界に一つだけの放送システム

試行錯誤の末にたどり着いたお昼の校内放送「香登小学校情報ライブ everyday」。その放送は、彼とその仲間達によって創造された、世界にたった一つだけの放送シ



図1 校内放送システム

システムによって行われていた。放送時に使用されるタブレットは4～5台。時間管理用、放送原稿用、選曲配信用、日替わり情報配信用と、用途別に使い分けられている。ICTによりシステム化され、担当が変わっても安定した放送ができる。これらは全て、彼らが手探りで、よりよい番組作りを目指して試行錯誤する中で生まれたものだった。図1にそのシステムの全容を示す。

2.3 もう一つの夢を叶える 生放送を Zoom で配信！

彼にはもう一つの夢があった。それは、テレビの生放送として番組を放送すること。彼は Zoom で全校配信する方法を思いつき、卒業前の3月、念願だった生放送を実現した(写真3)。



写真3 Zoomの生放送の様子

オープニング曲が流れ、生放送が始まる。Zoomの画面共有機能を使い、オープニングタイトルが表示された後、画面にアナウンサー役の児童3人が映る。次のお天気コーナーではカメラが屋外に切り替わり、百葉箱の横からお天気お

姉さん風に天気を中継する。スタジオに画面が戻った後、スタジオモニターに事前に作成したスラ



写真4 作成したスライドを画面共有

イドを映し「今日は何の日」を紹介する(写真4)。おすすめの本は、実物を見せながらコーナー担当児童が紹介。星座占いは、事前に作成したスライドを使い画面共有で全面に映す。最後に明日の天気をもう一度ライブカメラでつないだ後、エンディング。生放送の様子を覗きに來ていた管理職が、本物のテレビ番組さながらの様子に感嘆の声を上げた。

2.4 日常的な ICT 活用がアイデアを形に

児童がすべてを自ら考え、工夫し、様々な困難を乗り越えて形にした今回の実践。私は4年と6年の2年間彼を担任したが、委員会運営に関して相談に乗ったことも口を出したことも一度もない(放送委員会は別の教員が担当)。私が上の放送システムの全容を知ったのは、卒業直前の3月。初めて放送室を見た時は、あまりの完成度

の高さに衝撃を受けた。

一方で、教室では日々の授業の中で、ICTを活用していた。社会や総合等での調べ学習はも

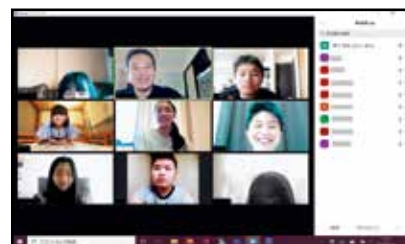


写真5 休校中のオンライン授業

もちろん、学習成果のスライド発表も日常的に行っていた。Zoomは、県外小学校との遠隔交流授業、休校中のオンライン授業(写真5)、韓国の小学生との国際交流など、何度も使った経験がある。彼を含む6年生児童は、タブレットを使ってクイズ系のコンテンツを作ったり、運動会の応援合戦のシナリオをPCでまとめたりと、目的のために効果的・日常的にICTを活用していた。生放送のお天気お姉さんのアイデアなどは、Zoomではスピーカーが自動で選択表示されるところからヒントを得たのだろう。放送室の中や入口、また廊下には、校内放送を知らせるポスターや張り紙が多数あったが、それらはすべて端末で作成しプリントアウトしたもの。日々の日常的な活用が彼のアイデアと結びつき、一連の活動を生み出した(写真6)。



写真6 プリントアウトされたスケジュールや張り紙

3. 成果

彼が身につけた力。企画力と提案力、形にするための行動力。思いや考えを分かりやすく説明する力や仲間との協調性。周囲への影響を考え調整する力。その彼の傍には、タブレットがあり、インターネットがあり、様々なツールがあった。ICTは彼の相棒で、仲間やリスナーとのコミュニケーションの手段でもあった。彼の夢は、仲間や教員や全校児童を巻き込み、ICTと共に形になったのだ(写真7)。彼が卒業して4か月。お昼になると、あのテーマ曲が流れ、放送が始まる。彼の提案した番組コーナーは、後輩たちがしっかりと受け継ぎ、今なお制限が余儀なくされている給食時間に、毎日楽しみと潤いを与え続けている。



写真7 夢をICTで形に